

上田市文化財調査報告書第99集

## 市内遺跡

平成16年度市内遺跡発掘調査報告書

2005. 3

上田市

上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第99集

## 市内遺跡

平成16年度市内遺跡発掘調査報告書

2005.3

上田市

上田市教育委員会

## 例　言

- 1 本書は、長野県上田市における各種開発事業に伴う平成16年度市内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国庫補助事業として上田市（上田市教育委員会事務局生涯学習課文化財係）が実施した。
- 3 現地調査は、生涯学習課文化財係尾見智志が行った。
- 4 現地調査は、主としてバックホーによるトレンチ調査で行った。バックホーの賃貸借・運転については、和農興・竹内和好が行った。
- 5 本調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。
- 6 本調査にあたり、開発施工主・担当課に調査実施に係る調整等、格段のご協力をいただいた。また、岡城跡の試掘調査に際しては、河西克造氏にご指導を賜った。
- 7 本調査に係る事務局の体制は、次のとおりである。

教育長	森大和
教育次長	中村明久
生涯学習課長	関和幸
文化財係長	土屋俊彦
文化財係	中沢徳士・尾見智志・塙崎幸夫

- 8 本調査に係る作業は次のとおり分担をした。

現　地　調　査	尾見
整　理　作　業	尾見・上原祐子
写　　真	尾見
本書執筆・編集	尾見

## < 目 次 >

(1) 内小屋遺跡（鉄塔建設）	1
(2) 千曲高校遺跡（共同住宅建設）	3
(3) 八幡裏遺跡（官舎建設）	5
(4) 中吉田遺跡（共同住宅建設）	7
(5) 宮脇遺跡（店舗建設）	9
(6) 間城跡・城遺跡（個人住宅建設）	11
(7) 築地遺跡（市指定文化財周辺整備事業）	15
(8) 染屋台条里水田跡遺跡1（共同住宅建設）	17
(9) 染屋台条里水田跡遺跡2（共同住宅建設）	19
(10) 上田原遺跡（耕作地整備）	21
出土遺物	23
染屋台条里水田跡遺跡における調査状況	25
平成16年度試掘調査地点位置図	27
写真図版	30
報告書抄録	34

## (1) 内小屋遺跡

1 調査地	上田市大字上野
2 原因	鉄塔建設
3 調査日	平成16年5月7日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを2本入れる
5 調査担当者	尾見智志

### 遺跡の環境と経過

内小屋遺跡は、伊勢山の陽泰寺から旧松代街道に沿って北西へ進んだ場所に位置し、東側は、神川の浸食により形成された断崖により隔離されている。「上田市の原始・古代文化によると、「縄文時代の石礎・凹石、後期の土師器などを出土している。」としているのみである。今まで、中世の砥石・米山城跡については県指定されている尾根部分に配置されている遺構を把握しているのみであったが、最近の歩査等により山麓部分の遺構についても、具体的に把握することができるようになってきた。

当該事業については、平成16年4月14日付で土木工事等の届出があり、それに対して平成16年4月23日付で長野県教育委員会より通知があった。それに伴って、上田市教育委員会は平成16年5月7日に試掘調査を行うこととした。

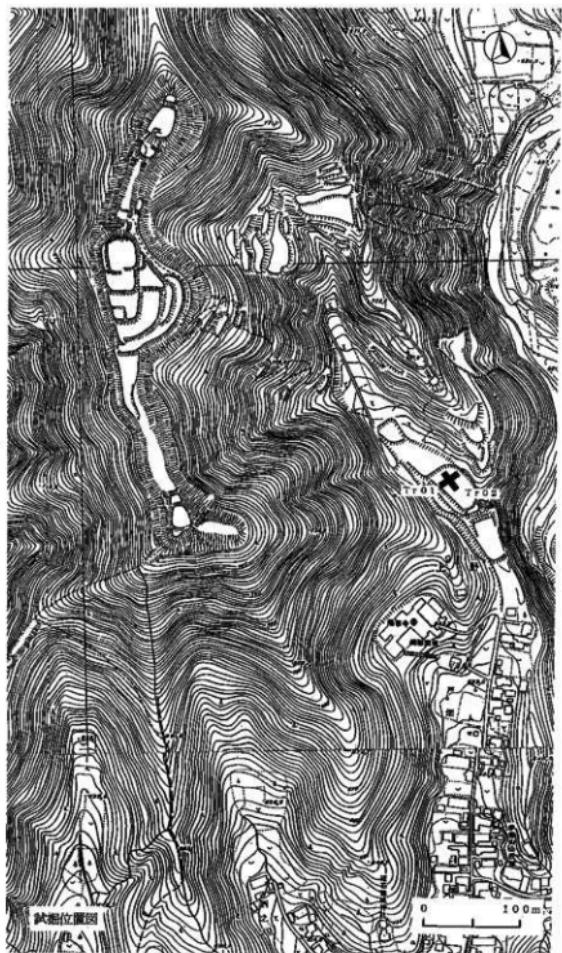
### 調査の結果

T r 01・02を設定して調査を行った。各トレンチとも、耕作土の下は茶褐色土層であった。この土層の下位からは、扁平な川原石が出土した。これらの石には、石敷状の遺構あるいは礎石状を呈するものも確認された。この周辺からは、内耳鍋片なども出土した。地元の人の話によると、昔からこの土地では耕作時に多量の川原石が出土しており、周辺の石積に使用しているとのことであった。また、多量の川原石の出土とその出土状況から推定すると、石敷の遺構があった可能性が示唆される。一方、内小屋遺跡は縄文時代や平安時代の遺跡ともされていることから、トレンチを地山層まで掘り下げたが当該期の遺構・遺物は確認できなかった。

これらのことから、当該地には中世の遺構の存在が考えられるに至った。その為、敷石あるいは礎石が残存している可能性のある場所を避けることを目的に、鉄塔本体付近の表土を取り除いて遺構・遺物の有無を調査した。その結果、鉄塔本体付近には川原石が見られず、遺物も確認することができなかつた。

主な出土遺物は次のとおりである。

T r 01 (内耳鍋片)・T r 02 (陶器片・内耳鍋片)



基本土層

(W0.02m)

Tr01(鉄塔)

0
20
35
65

Tr02(内小屋)

0
23
53
69

Tr03(石敷き)

0
21
66

石敷き

1層：耕作土（シルト質）

2層：黒茶褐色土層（シルト質）

3層：黄茶褐色土層（シルト質）

4層：黄褐色土層

第1図 内小屋遺跡（鉄塔建設）

## (2) 千曲高校遺跡

1 調査地	上田市大字中之条
2 原因	共同住宅建設
3 調査日	平成16年5月14日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

### 遺跡の環境と経過

千曲高校遺跡は、千曲高校を中心として帯状に拡がる千曲川の河岸段丘上に立地していると思われる。当該遺跡は多くの小字にひろがっていることから、千曲高校遺跡群という名称が適当な遺跡であると思われる。出土遺物から縄文時代・弥生時代後期から古墳時代・奈良・平安時代の遺構が存在すると思われる。千曲高校遺跡では、旧陸軍の上田飛行場建設時に多くの出土遺物があったことが伝えられている。戦後も、千曲高校の移転・修築等により多くの遺物が出土しており、1976年には千曲高校の改築に伴い発掘調査が行われた。A・B・J・K・Lの各地区で発掘調査を行った。A地区からは、旧陸軍上田飛行場の建物跡と古銭（天祐通宝）の出土が確認された。B地区からは、平安時代に属するものと思われる堅穴住居跡が確認された。J地区からは、弥生時代後期の堅穴住居跡が確認された。L地区からは、土坑が確認された。

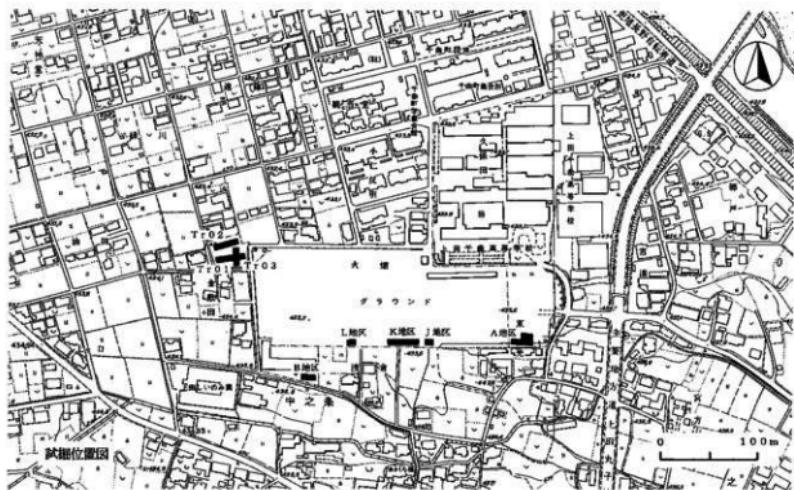
本件については、平成16年4月16日に開発事業届に係る現地調査を行い、当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。その後、保護協議を経て平成16年5月14日に試掘調査を行い、堅穴住居跡等の遺構・遺物を確認した。平成16年5月24日に再度の保護協議を行い、基礎工の変更で対応できるかどうかを検討し遺跡保護の合意を得た。

### 調査の結果

T r 01・02・03を設定して調査を行った。T r 01からは、弥生時代後期の堅穴住居跡（1軒）と土坑が確認された。T r 02からは、弥生時代後期の堅穴住居跡（2軒）と土師器片の出土する堅穴住居跡（1軒）が確認された。T r 03からも、土師器片が出土する堅穴住居跡と思われるもの（1軒）が確認された。土師器片は、小片が多く時期決定をするには問題があるが、胎土・焼成・器面の調整等から古墳時代に属するものと思われる。また、これらの遺構は地表面から45～60cmの深さで検出された。一方、堅穴住居跡の分布状況をみると、遺構は密集することなく適度な間隔をおいて存在していることが推定される。

主な出土遺物は次のとおりである。

T r 01（弥生時代後期の土器片）・T r 02（弥生時代後期の土器片・古代の土師器片）・T r 03（古代の土師器片）



### 基本土層 (周辺地)

	Tr01(0m)	Tr02	Tr03(0m)
1	0	1	0
3	11	2	14
5	28	4	18
	50 (透構検出面)	6	32
			60 (透構検出面)
			6 (透構検出面)

	Tr03(0m)
1	0
2	18
4	25
6	65

1層：耕作土  
2層：溶脱層  
3層：灰黒褐色土層（シルト質）  
4層：黒茶褐色土層（シルト質）  
5層：黄褐色土層（シルト質）  
6層：茶褐色土層（堅緻）

第2図 千曲高校遺跡（共同住宅建設）

### (3) 八幡裏遺跡

1 調査地	上田市中央北三丁目
2 原 因	官舎建設
3 調査日	平成16年5月31日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを2本入れる
5 調査担当者	尾見智志

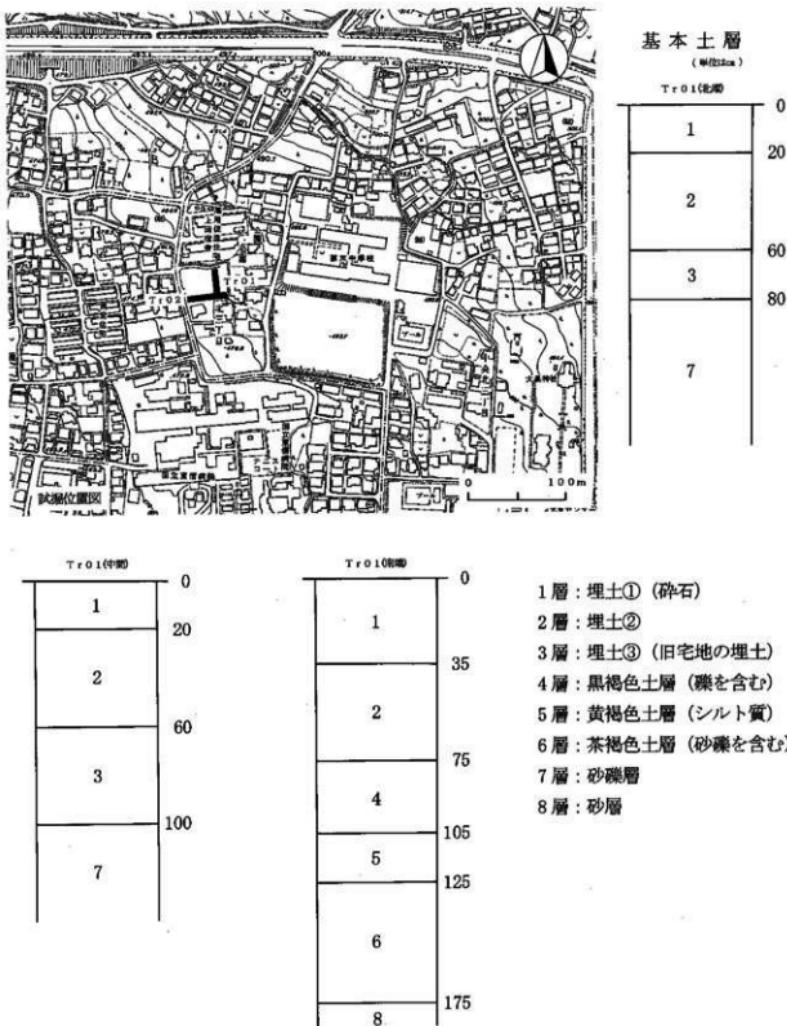
#### 遺跡の環境と経過

八幡裏遺跡は、太郎山南麓の黄金沢を中心とした小河川により形成された扇状地の西端部に位置している。これは、思川遺跡・大星前遺跡・海善寺裏遺跡・新田遺跡・道祖神遺跡・八幡東遺跡・八幡裏遺跡などの総称として八幡裏遺跡群とすべき遺跡である。各遺跡からは、縄文時代から奈良、平安時代の土器片等の遺物が出土しているとされている。当該遺跡群では、平成6年から長野県職員住宅・国立長野病院建設および病院関連の整備事業・道路改良工事等が実施され、それに伴い6次にわたる発掘調査が行われている。これらの調査からも、縄文時代から奈良、平安時代にわたる遺構・遺物が確認されている。

上田市教育委員会は、平成16年4月28日に関東信越国税局から事業を行う予定がある旨の連絡を受けた。当該地は第5次調査の場所の北に隣接し、その調査結果では「さらに北に広がる可能性がある」(『八幡裏遺跡V』1999上田市教育委員会)と指摘されていることから、遺跡の有無の確認を行う必要が生じた。平成16年5月6日に現地調査を行い、当該地について遺跡の有無の確認を行う必要がある旨を伝えた。平成16年5月31日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。

#### 調査の結果

T r 0 1・0 2を設定して調査を行った。まず、T r 0 1を北側から南側(山側から谷側へ)へと設定して土砂の堆積状況を確認した。T r 0 1の北側では、三度の埋め立を確認することができた。最下層の埋土の下は砂礫層(7層)であった。南側では、埋土の下には黒褐色土層(4層)を確認することができた。その下には茶褐色土層(5層)が確認され、砂礫層はこの茶褐色土層の下に認められた。第5次調査によると、茶褐色土層(5層)付近が遺構検出面であると考えられる。これらのことから、当該地内南側に東西に延びるT r 0 2を当該地南側に設定して遺跡の有無を確認した。しかし、遺構・遺物を確認することはできなかった。その結果、遺跡は当該地までは及んでいないことが推定されるに至った。



第3図 八幡裏遺跡（官舍建設）

#### (4) 中吉田遺跡

1 調査地	上田市大字芳田
2 原因	共同住宅建設
3 調査日	平成16年6月10日
4 調査方法	幅約1mのトレーナーを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

##### 遺跡の環境と経過

中吉田遺跡は、烏帽子岳山麓線沿いにひろがる遺跡で多くの小字にわたって立地していることから、中吉田遺跡群という名称が適当な遺跡であると思われる。出土遺物から縄文時代から奈良、平安時代の遺構が存在すると思われる。当該地は、その中の戎田遺跡に該当し、「上田市の原始・古代文化」によると「土師後期の壺・瓶の破片などが出土している。」としている。

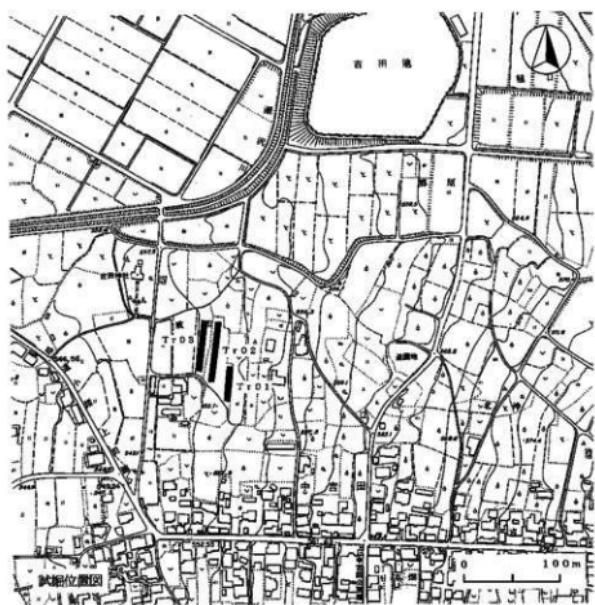
本件については平成16年5月17日に開発事業届に係る現地調査を行い、当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。その後、保護協議を経て平成16年6月10日に試掘調査を行ったが、遺構は確認できなかった。

##### 調査の結果

T r 0 1・0 2・0 3 を設定して調査を行った。耕作土の下は灰黒褐色土層であり、その下位からは人頭大から幼児大までの礫が多量に出土したために掘削は困難を極めた。しかし、どのトレーナーについても、南側の掘削になると礫群は減少した。地表面には土器片が散見されることから遺構の発見が期待されたが、調査では T r 0 3 の北端から3点の土器片が出土したのみであった。この土器片は大きな礫が混入する地層に含まれていることから、①付近に存在する遺跡・遺構からの流れ込みか、②古くからの当該地の整地により遺跡が破壊されていることが考えられる。なお、近所で耕作をしていた男性への聞き込みによると、中吉田地区では地表面の下は礫群に覆われているとのことであった。

主な出土遺物は次のとおりである。

T r 0 3 (古代の土器片・須恵器片)



基本土層  
(側溝底)

Tr 01(中間)	0
1	18
3	32
7	

Tr 02(北端)	0
1	23
4	47
5	(礫を多く含む)
	91
8	

Tr 02(南端)

0	0
1	
24	
6	
(黄褐色土を含む)	
74	
7	

Tr 03(北端)

0	0
1	
40	
4	
(礫を含む)	
64	
5	
82	
7	

Tr 03(南端)

0	0
1	
22	
2	
31	
4	
44	
6	
76	
7	

1層：耕作土

6層：茶褐色土層

2層：溶脱層

7層：黄褐色土層（地山）

3層：黑茶褐色土層

8層：灰黃褐色土層（地山）

4層：黑灰色土層

5層：黑褐色土層

第4図 中吉田遺跡（共同住宅建設）

## (5) 宮脇遺跡

1 調査地	上田市大字築地
2 原因	店舗建設
3 調査日	平成16年10月26・27・28日
4 調査方法	幅約1mのトレーナーを14本入れる
5 調査担当者	尾見智志

### 遺跡の環境と経過

宮脇遺跡は、ひる沢川および産川により形成された自然堤防上あるいは氾濫原に立地している。当該遺跡については平成8年に国道143号線バイパス建設に伴う発掘調査が行われている。この発掘調査では七社宮に隣接する自然堤防上からは弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての堅穴住居跡が確認されている。また、自然堤防の背後にあたる調査地区南側からは、奈良時代から平安時代にかけての堀立柱建物群が確認された。さらに、七社宮に隣接して、中世の土塁の一部と堀跡が確認された。

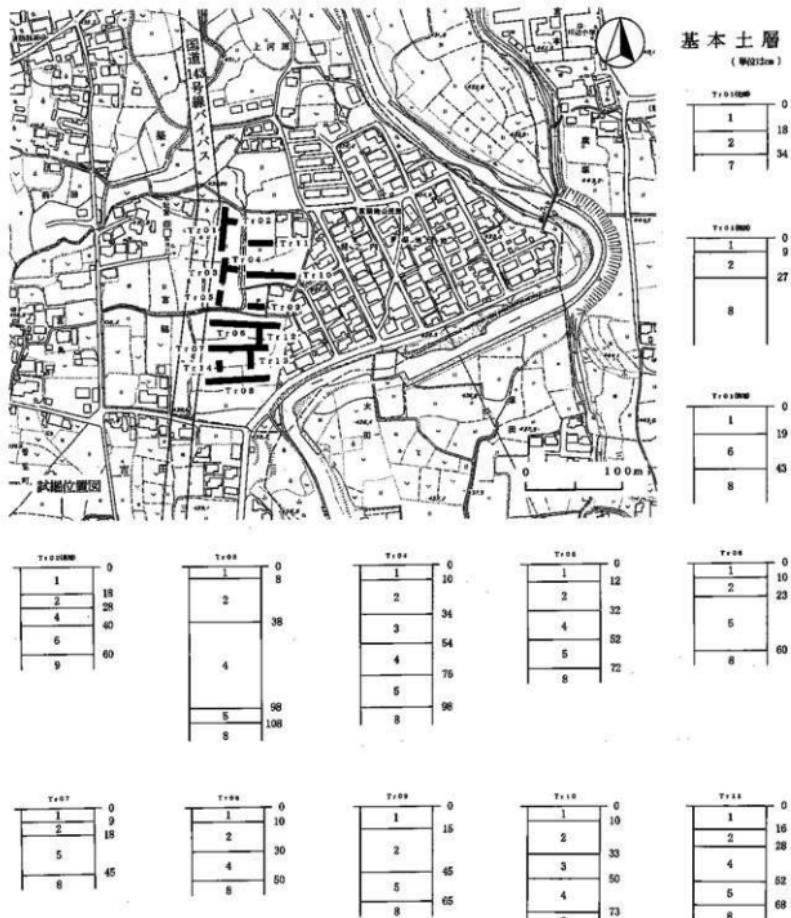
本件は、平成16年4月15日に県外所在の事業者側から「埋蔵文化財の所在の有無およびその取り扱いについて」の照会があり、平成16年4月16日付で回答書を送付した。その後、平成16年10月12日に試掘調査承諾書が送付されてきたことから、試掘を行うこととなった。平成16年10月26・27・28日に試掘調査を行ったが、一部に遺構・遺物等が確認された。その為、平成16年11月1日付で試掘調査終了報告書を送付し、遺構検出箇所での施工に注意を促した。

### 調査の結果

T r 01～14を設定して調査を行った。T r 01北側とT r 02については、七社宮から続く半島状の自然堤防を削平して水田としていることが確認された。遺構は確認できなかった。T r 01南側とT r 03からは、平成8年の発掘調査地点から続く堀立柱建物群の柱穴と思われる遺構が確認された。しかし、T r 04・05などからは遺構が確認されなかったことから、遺跡はそれほど広範囲に広がっていないことが推定された。T r 06・07・09・10・12・13・14からは連続する溝状遺構が確認された。この溝状遺構からは所属時期を示すような遺物は出土しなかった。しかし、これは七社宮を取り囲むように回っており、この地にあったとされる中世居館跡に關係する遺構とも推測される。

主な出土遺物は次のとおりである。

T r 01（弥生時代後期の土器片・土師器片）・T r 02（土師器片）・T r 03（土師器片）・T r 05（縄文土器片）・T r 06（土師器片）



第5図 宮脇遺跡（店舗建設）

## (6) 岡城跡・城遺跡

1 調査地	上田市大字岡
2 原因	個人住宅建設
3 調査日	平成16年1月22・24・25・26・29・30日・ 12月1・2・3日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを5本入れる
5 調査担当者	尾見智志

### 遺跡の環境と経過

岡城跡は昭和47年4月1日に旧川西村との合併により上田市指定文化財となった。また、城遺跡は「上田市の原始・古代文化」によると「団地の造成によって、かなりの部分が破壊されている。前期から晩期の土師器、前期の須恵器が、およそ3,000m<sup>2</sup>にわたって出土している。」としている。岡城跡は、昭和52年1月の圃場整備事業に伴う発掘調査で三日月堀と外堀にトレンチを設定して土層観察を中心とした調査が行われた。しかし、圃場整備後の地形の変化および地割の変更による遺構の位置・圃場整備による遺跡の破壊状況等が不明であった。

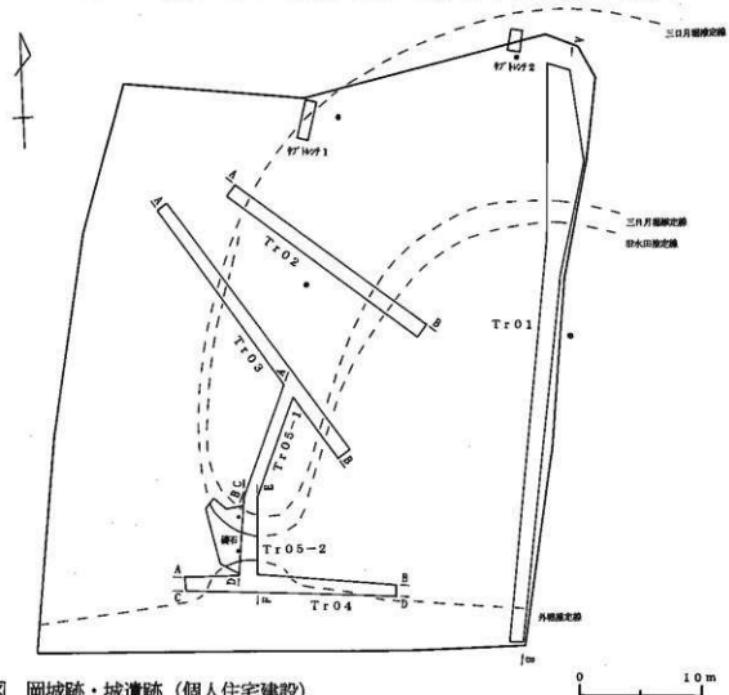
本件は、平成14年に地権者側から住宅建設の要望が伝えられた。その後、数回の協議を重ねて、遺跡の現状確認を行うことになった。平成16年1月17日に地権者と埋蔵文化財の保護協議を行い、試掘調査を行うこととした。調査は平成17年1月22日から平成17年12月3日まで行った。その結果、三日月堀および外堀の残存状況と位置が確認できた。また、城遺跡についても古墳時代から奈良・平安時代の遺構・遺物が確認されたことから、城遺跡の北端を想定することができた。

### 調査の結果

T r 0 1～0 5を設定して調査を行った。T r 0 1では、その北端に三日月堀の跡が確認された。これは、圃場整備事業による道路拡幅により一部が道路の下となっていることが判明した。T r 0 1の南端では外堀の跡と城遺跡の遺構と思われる土坑が確認された。T r 0 2・0 3では三日月堀の規模および形状を確認した。T r 0 4・0 5では三日月堀と外堀との関係および形状を確認した。調査結果から、①土層観察により、明治23年作成の地籍図で確認できる三日月状を呈する水田は三日月堀跡を利用していたこと②三日月堀は最大幅約1.8m・最深約3mと推定されること③三日月堀の端と外堀の間には礎石をもつ構築物が存在したことが確認された。

主な出土遺物は次のとおりである。

T r 0 1 (古代の土師器片・須恵器片・中世の陶器片)・T r 0 3 (古代の須恵器片)・  
T r 0 5 (古代の土師器片・須恵器片)

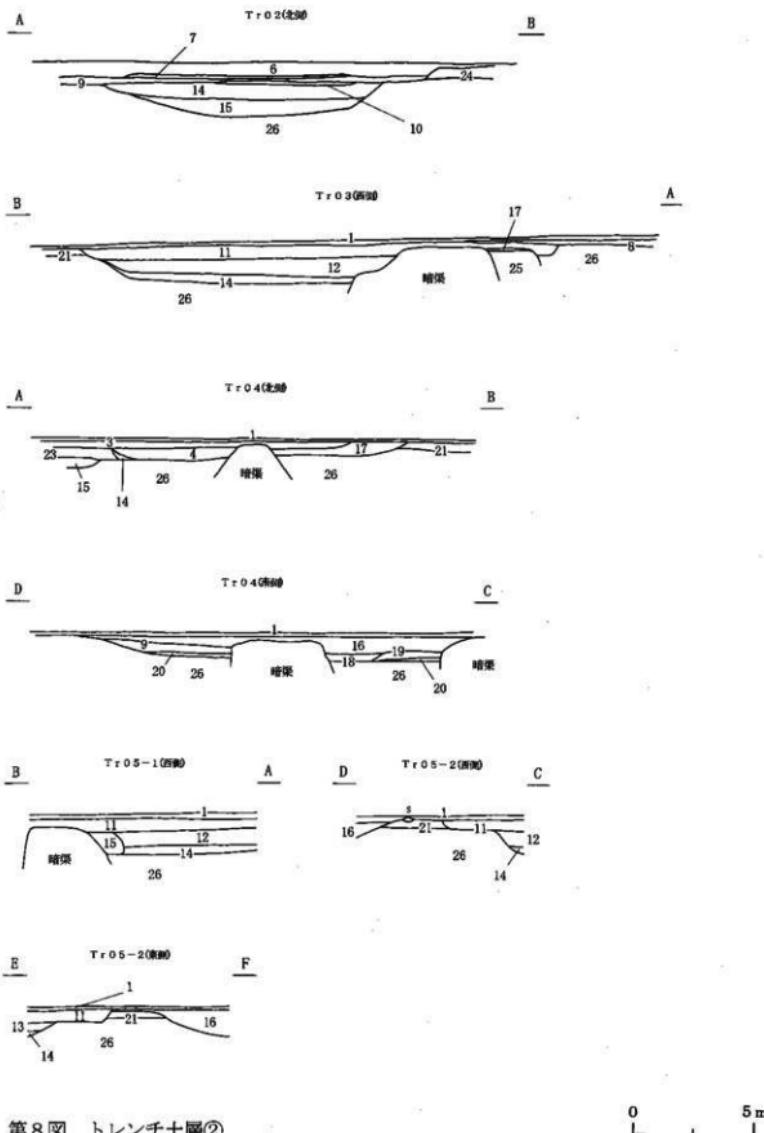


第6図 岡城跡・城遺跡（個人住宅建設）

- 1層：耕作土  
 2層：埋土①（茶褐色土層・円礫、ゴミ等含む）  
 3層：埋土②（黄褐色土層・拳大の円礫を含む）  
 4層：埋土③（黒茶褐色土層・拳大の円礫を含む）  
 5層：礫①層  
 6層：埋土④（灰黒褐色土層・茶褐色土をブロック状に含む）  
 7層：礫②層（碎石）  
 8層：灰黃褐色土層（砂質）  
 9層：灰黒茶褐色土層  
 10層：灰黒褐色土層（砂質・礫を含む）  
 11層：埋土⑤（灰褐色土層・砂質・黄褐色土混じる）  
 12層：埋土⑥（黄褐色土層・灰色土をブロック状に含む）  
 13層：埋土⑦（茶褐色土層・黄褐色土混じる）  
 14層：灰黒褐色土層（粘性が強い）  
 15層：青灰色土層（粘性が強い）



第7図 トレンチ土層①



第8図 トレント土層②

## (7) 築地遺跡

1 調査地	上田市大字築地
2 原因	市指定文化財周辺整備事業
3 調査日	平成16年12月6日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを2本入れる
5 調査担当者	尾見智志

### 遺跡の環境と経過

築地遺跡は産川と浦野川が合流する地域に所在し、沖積扇状地上に微高地や後背湿地が認められるとともに、産川により形成された河岸段丘も認められる。築地遺跡は、多くの小字にわたって立地していることから、築地遺跡群という名称が適当な遺跡であると思われる。このことから、当該地は築地遺跡群の中の藏之台遺跡の範囲となり、「上田市の原始・古代文化」によると「弥生後期の箱清水式土器、後・晚期の土師器などが表探される。」としている。築地遺跡群では、駕籠田遺跡が平成9年に圃場整備事業に伴い発掘調査が行われた。発掘調査では、弥生時代後期の竪穴住居跡・奈良時代から平安時代にかけての竪穴住居跡・堀立柱建物群などが確認された。また、当該地が東山道通過地点に比定されていることから、確認された道路状遺構は堀立柱建物群と共に東山道との関係が注目されている。

本件は、上田市指定文化財の倉沢家住宅の敷地内であり、駐車場を設置するなどの整備・活用計画を立てる上から、遺跡の有無の確認を行うこととなった。平成16年12月6日に試掘調査を実施したところ、遺構・遺物が確認された。整備・活用計画については、埋蔵文化財の保護の視点も加わることとなった。

### 調査の結果

T r 0 1・0 2を設定して調査を行った。いずれのトレンチからも竪穴住居跡・土坑が確認された。これらは、出土遺物から平安時代前期に属する遺構と思われる。上田市の埋蔵文化財分布地図では当該地域は遺跡の範囲から除かれていたが、今回の調査結果により遺跡は拡がっていることが確認できた。

主な出土遺物は次のとおりである。

T r 0 1 (古代の土師器片・須恵器片)・T r 0 2 (古代の土師器片)



基本土層

(単位dm)

1	0 9
2	
3	46 56
4	(遺構検出面)

T-01(北側)

1	0 8
2	
3	38 48
4	(遺構検出面)

T-02(北側)

1	0 9
2	
4	46 54
5	

T-02(中間)

1	0 7
2	
6	18 (遺構検出面)

T-02(南側)

1	0 14
2	
4	44

1層：埋土

2層：茶褐色土層（シルト質）

3層：褐色土層（シルト質）

4層：黄褐色土層（シルト質）

5層：黄褐色土層（疊混じる）

6層：黒褐色土層（シルト質・竪穴住居跡覆土）

第9図 築地遺跡（市指定文化財周辺整備事業）

## (8) 染屋台条里水田跡遺跡 1

1 調査地	上田市大字上野
2 原 因	共同住宅建設
3 調査日	平成17年1月27日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを4本入れる
5 調査担当者	尾見智志

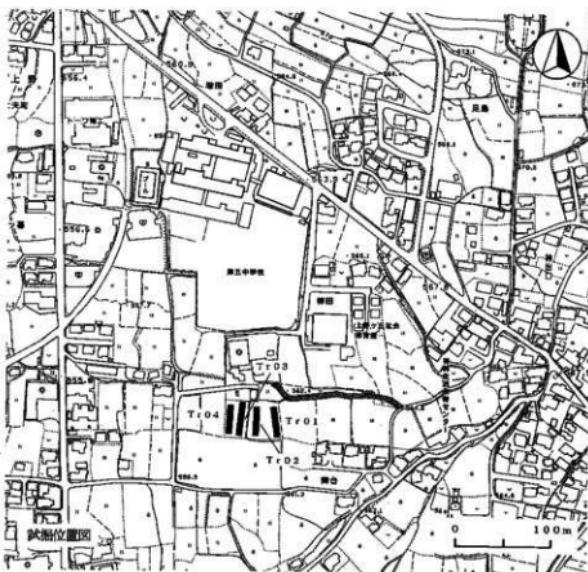
### 遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部で千曲川と神川によって形成された河岸段丘上に位置する。この台地は、通称染屋台と呼ばれている。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つかの遺跡が試掘調査によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。

本件は平成17年1月13日に開発事業届に係る現地調査を行い、当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。その後、保護協議を経て平成17年1月27日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。

### 調査の結果

T r 0 1 • 0 2 • 0 3 • 0 4 を設定して調査を行った。耕作土の下は黄褐色土層であり、その下に地山となる茶褐色土層が確認された。いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認できなかった。また、条里水田の痕跡も確認できなかった。



基本土層  
(耕作土)

Tr 01(北面)	0
1	16
2	32
3	

Tr 01(南面)

Tr 01(南面)	0
1	12
2	26
3	

Tr 02(北面)

Tr 02(北面)	0
1	16
2	32
3	

Tr 02(南面)

Tr 02(南面)	0
1	14
2	26
3	

Tr 03(北面)

Tr 03(北面)	0
1	16
2	36
3	

Tr 03(南面)

Tr 03(南面)	0
1	15
2	33
3	

Tr 04(北面)

Tr 04(北面)	0
1	17
2	45
3	

Tr 04(南面)

Tr 04(南面)	0
1	16
2	36
3	

1層：耕作土

2層：黄褐色土層（粘性が強い・灰白色土が混じる）

3層：黄褐色土層（地山）

第10図 染屋台条里水田跡遺跡1（共同住宅建設）

## (9) 染屋台条里水田跡遺跡2

1 調査地	上田市大字古里
2 原 因	共同住宅建設
3 調査日	平成17年2月9日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

### 遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部の千曲川と神川によって形成された河岸段丘上に位置する。この台地は、通称染屋台と呼ばれている。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つかの遺跡が試掘調査によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。

本件は平成17年1月13日に開発事業届に係る現地調査を行い、当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。その後、保護協議を経て平成17年2月9日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。

### 調査の結果

T r 0 1 • 0 2 • 0 3 を設定して調査を行った。耕作土の下は黄褐色土層であり、その下に堅緻な黒褐色土層あるいは黄褐色土層が確認された。いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認できなかった。また、条里水田の痕跡も確認できなかった。



基本土層  
(単位:dm)

Tr 0.1(北端)	0
1	19
3	36
4	

Tr 0.1(南端)

Tr 0.1(南端)	0
1	21
4	

Tr 0.1(サブトレ)

Tr 0.1(サブトレ)	0
1	42
2	57
3	
4	102

Tr 0.2(北端)

	0
1	20
2	
4	50

Tr 0.2(南端)

	0
1	18
4	

Tr 0.3(北端)

	0
1	24
4	

Tr 0.3(南端)

	0
1	23
4	

1層：耕作土

2層：黄褐色土層（耕作土が混じる）

3層：黒褐色土層（堅緻）

4層：黄褐色土層（堅緻・地山）

第11図 染屋台条里水田跡遺跡2（共同住宅建設）

## (10) 上田原遺跡

1 調査地	上田市大字上田原
2 原因	耕作地整備
3 確認日	平成16年5月25日
4 確認方法	現地歩査
5 確認者	尾見智志

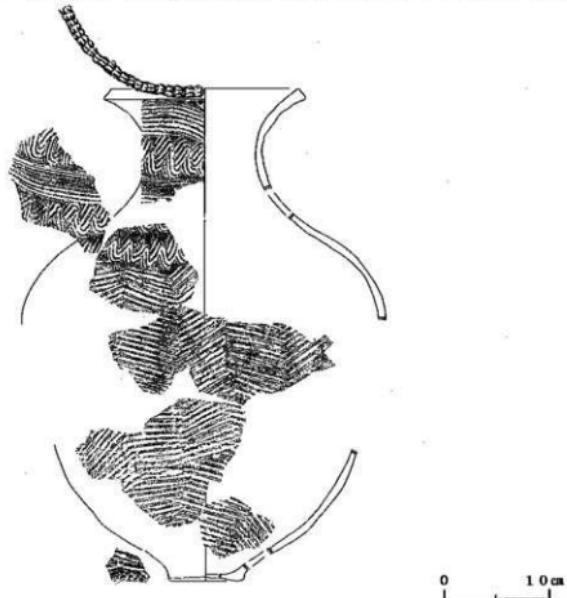
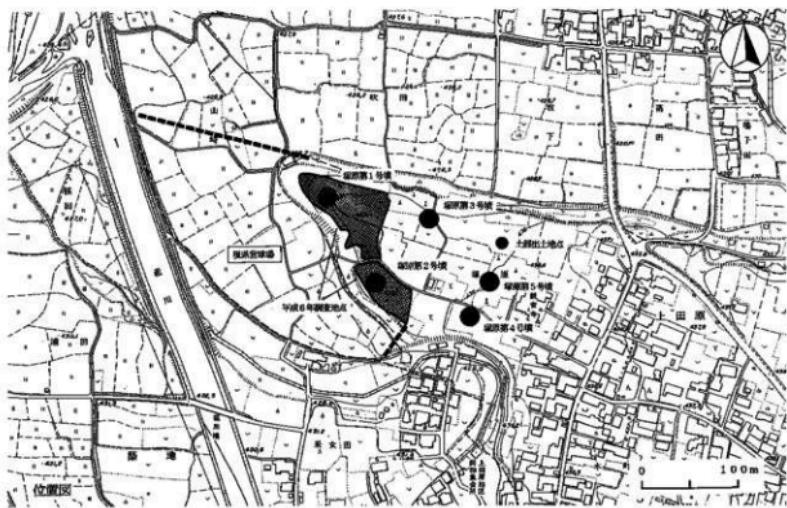
### 遺跡の環境と経過

上田原遺跡は、千曲川の第2段丘面で通称上田原台地と呼んでいる台地端部に立地している。上田原遺跡は、多くの小字にわたって立地していることから、上田原遺跡群という名称が適当な遺跡であると思われる。当該遺跡は、縄文時代から中世にわたる遺跡であると思われる。本件の位置は塚原遺跡の範囲に該当し、「上田市の原始・古代文化」によると、「縄文前期の南大原式・下島式、中期の勝坂式・加曾利E式の土器、石鎌・打製石斧・凹石、後・晚期の土師・須恵器片などを出土している。また、この畑地内から多くの五輪塔を出土し、戦国時代の墳墓址と考えられる。弥生後期の箱清水式土器、後・晚期の土師器などが表採される。」としている。塚原遺跡は、平成6年に県営球場建設に伴い発掘調査が行われた。発掘調査では、縄文時代中期の竪穴住居・縄文時代晚期から弥生時代前期にかけての土坑群・弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居・周溝墓・木棺墓・古墳時代後期の古墳・礫床墓・平安時代の竪穴住居・土坑墓などが確認された。

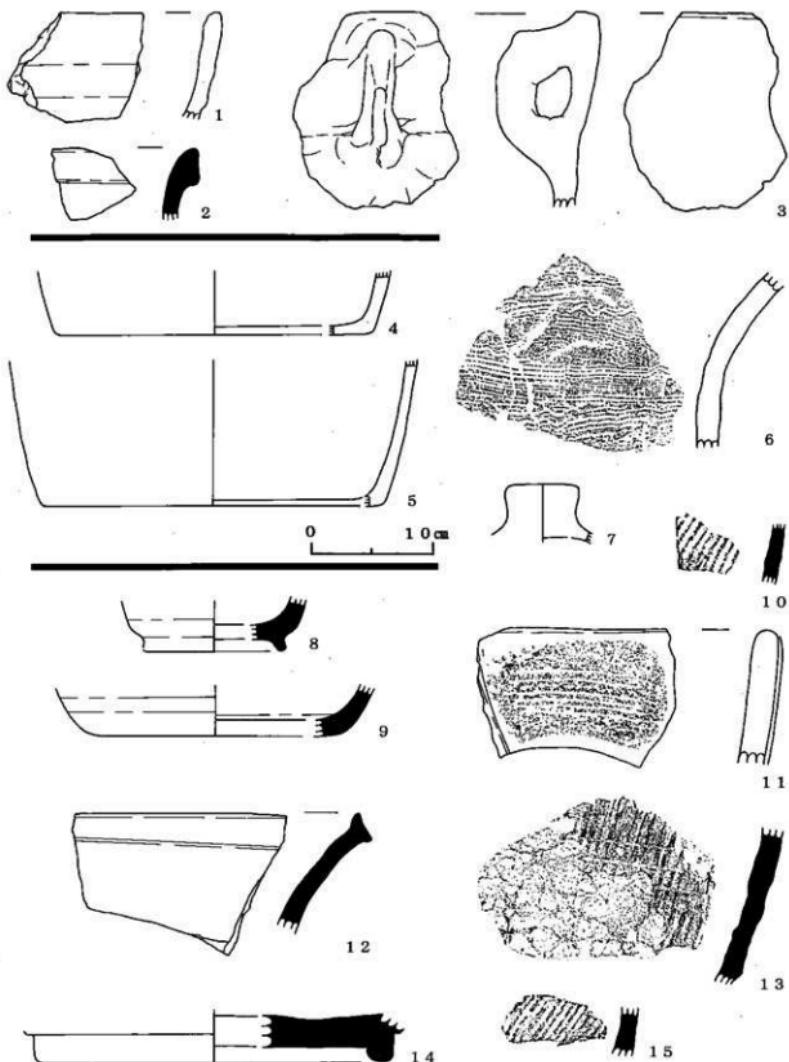
本件は、平成16年5月に畑の耕作中に土器が出土したことを、上田市立国分寺資料館の倉沢館長を経由して連絡を受けたことによる。その後、耕作関係者から土器の引き渡しを受けるとともに現地の歩査を行った。現場では、すでに土器の出土した耕作による穴は埋められており、遺構の存在等の確認をすることはできなかったが、地表面を精査したところ、同一個体と思われる破片が採取された。

### 調査の結果

出土した土器は、縄文時代晚期から弥生時代前期にみられる条痕文系土器である水神平式土器の系譜に該当するものであることが確認された。器種は壺で、胎土に長石等を含む非在地系の胎土であった。破片は口縁から頸部・胴部・底部まで揃っており、同一個体のものとみられるが、完全復元できるほど多くの破片は揃っていないかった。このことから、土器は何らかの遺構に伴って埋まっていた可能性が高いことが推定される。また、この地点から土器が出土したことから、平成6年の発掘調査地点から当該地域までの範囲に縄文時代晚期から弥生時代前期にかけての遺跡が拡がっていることが確認された。



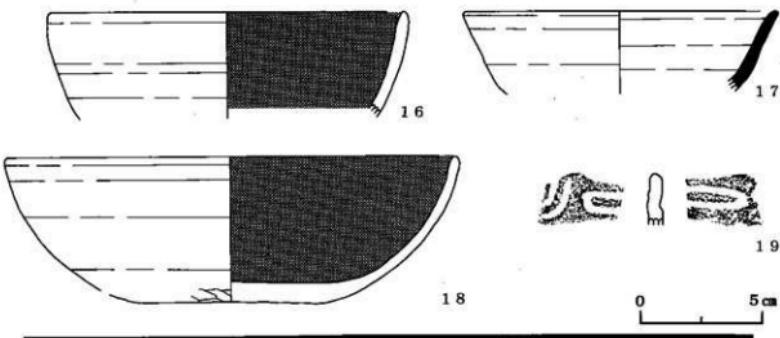
第12図 上田原遺跡（耕作地整備）



第13図 試掘出土遺物①

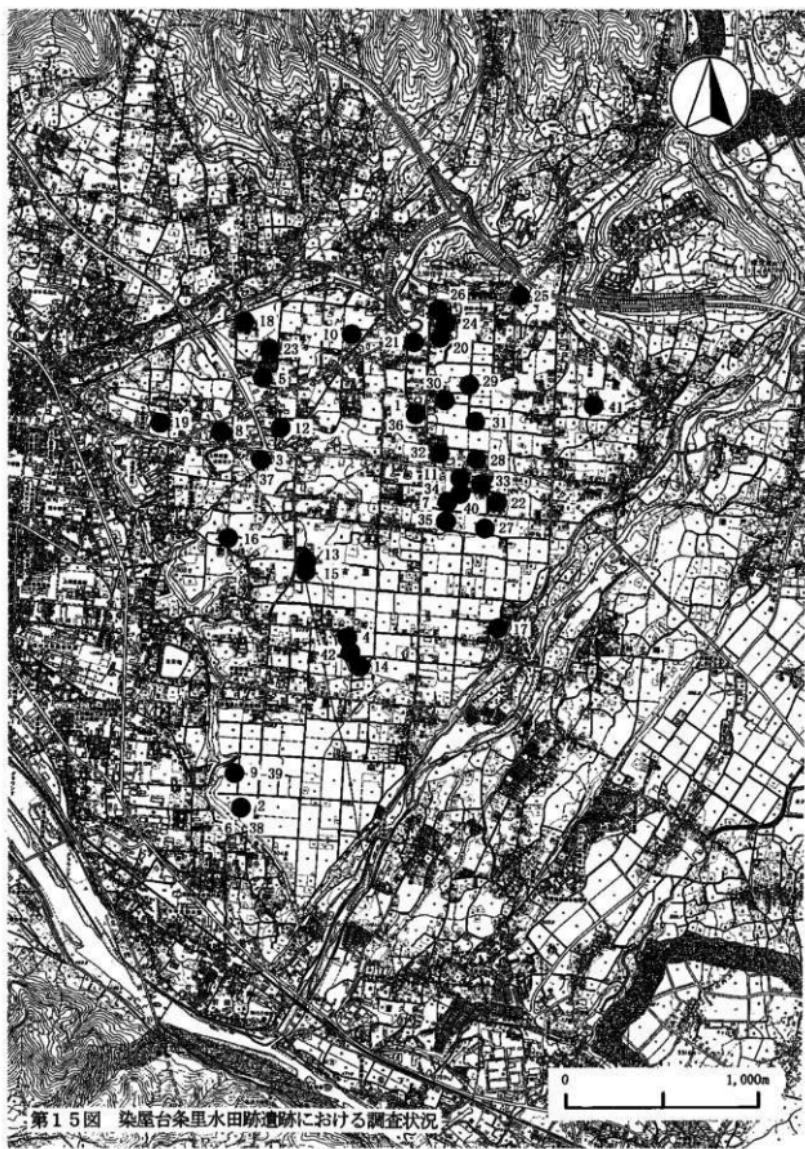
(1~5:内小星、6・7:千曲高校、8・9:中吉田、10・11:宮脇、12~15岡城跡)

0 5 cm



第14図 試掘出土遺物② (16~18:築地、19・20:上田原)

0 10 cm



第15図 染屋台条里水田跡遺跡における調査状況

No.	年度	遺跡名	調査結果	備考
1	H4	柳町遺跡	なし	
2	H6	染屋台条里水田跡遺跡	遺構・遺物等確認	古城遺跡として調査
3	H7	染屋台条里水田跡遺跡Ⅰ	遺構・遺物等確認	大烟遺跡として調査
4	H7	染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
5	H7	染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
6	H7	染屋台条里水田跡遺跡4	遺構・遺物等確認	古城遺跡として調査
7	H8	西之手遺跡	遺構・遺物等確認	西之手遺跡として調査
8	H8	染屋台条里水田跡遺跡	なし	
9	H8	上沖遺跡	遺構・遺物等確認	上沖遺跡として調査
10	H9	染屋台条里水田跡遺跡Ⅰ	なし	
11	H9	染屋台条里水田跡遺跡	遺構・遺物等確認	西之手遺跡
12	H9	染屋台条里水田跡遺跡Ⅱ	なし	
13	H11	染屋台条里水田跡遺跡	なし	
14	H12	染屋台条里水田跡遺跡(1)	なし	
15	H12	染屋台条里水田跡遺跡(2)	なし	
16	H12	染屋台条里水田跡遺跡(3)	なし	
17	H13	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
18	H13	染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
19	H14	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
20	H14	染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
21	H14	染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
22	H14	染屋台条里水田跡遺跡4	なし	
23	H14	染屋台条里水田跡遺跡5	なし	
24	H15	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
25	H15	染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
26	H15	染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
41	H16	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
42	H16	染屋台条里水田跡遺跡2	なし	

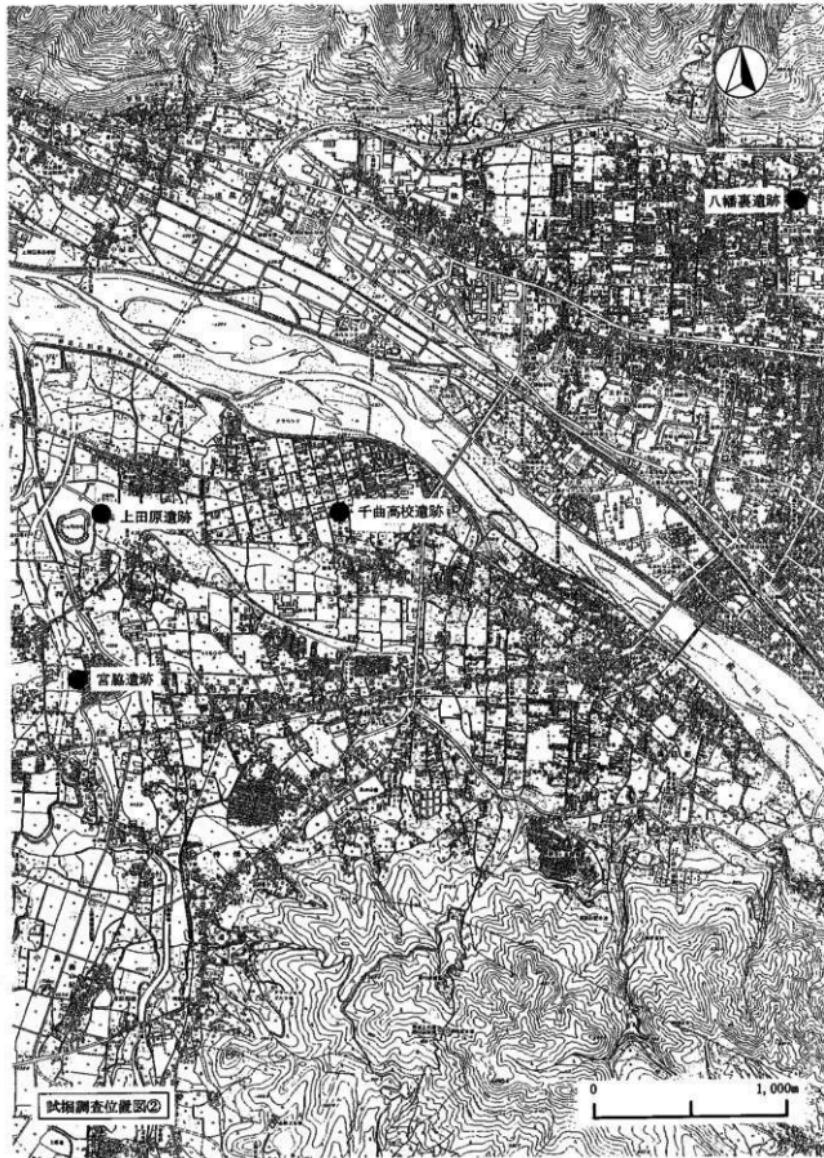
以上、試掘調査

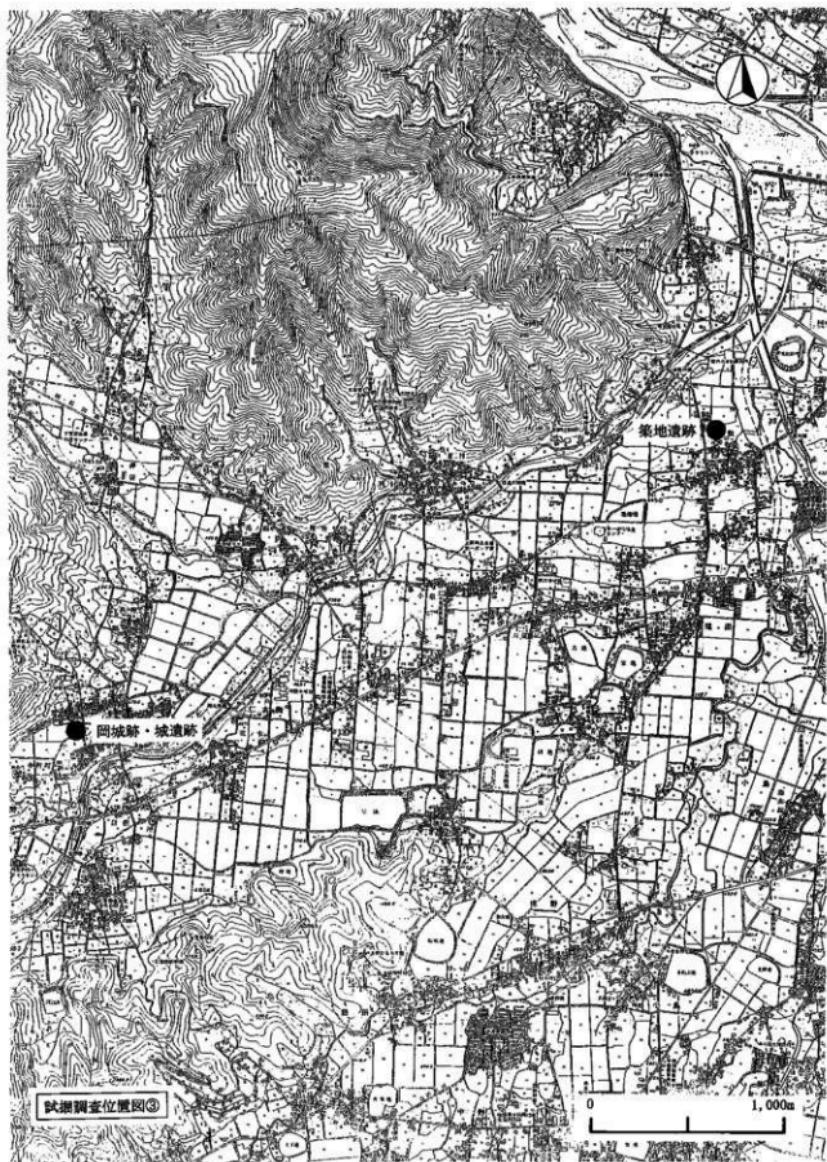
27	S58	創地の信濃國府跡推定地確認調査Ⅰ	古墳後期の遺構・遺物	
28	S59	創地の信濃國府跡推定地確認調査Ⅱ	西之手遺跡	
29	S60	創地の信濃國府跡推定地確認調査Ⅲ A地点	弥生・古墳前期と後期の土器片	
30	S60	創地の信濃國府跡推定地確認調査Ⅲ B地点	中世前期の陶磁器片	
31	S61	創地の信濃國府跡推定地確認調査Ⅳ	なし	
32	S62	創地の信濃國府跡推定地確認調査Ⅴ B地点	なし	
33	S62	創地の信濃國府跡推定地確認調査Ⅴ D地点	古墳後期の遺物	
34	S62	創地の信濃國府跡推定地確認調査Ⅴ E地点	古墳後期の遺構・遺物	
35	S62	創地の信濃國府跡推定地確認調査Ⅴ G地点	なし	
36	H2	柳町遺跡	古墳後期の遺構・遺物	1と同じ遺跡
37	H8	大烟遺跡	中世前期の遺構・遺物	3と同じ遺跡
38	H9	古城遺跡	平安後期の遺構・遺物	2・6と同じ遺跡
39	H10	上沖遺跡	平安後期・中世の遺構・遺物	9と同じ遺跡
40	H11	西之手遺跡	古墳中期～後期の遺構・遺物	7・11と同じ遺跡

表1 染屋台条里水田跡遺跡における調査状況

(※ 図表は、調査報告書等により確認できる調査について記載した。また、参考にした報告書名の記載は省略した。)









内小屋遺跡



千曲高校遺跡



八幡裏遺跡



中吉田遺跡



宮脇遺跡



岡城跡・城遺跡 (Tr 01)



岡城跡・城遺跡（Tr 02）



岡城跡・城遺跡（Tr 01土層）



岡城跡・城遺跡（礎石）



築地遺跡



染屋台条里水田跡遺跡 1



染屋台条里水田跡遺跡 2

## 調査報告書抄録

ふりがな	しないいせき		
書名	市内遺跡		
副書名	平成16年度市内遺跡発掘調査報告書		
シリーズ名	上田市文化財調査報告書		
シリーズ番号	第99集		
編著者名	尾見智志		
編集機関	上田市教育委員会		
所在地	〒386-0025 長野県上田市天神二丁目4番74号 TEL0268(23)5102		
発行年月日	2005年3月25日		

所収遺跡名	コード		調査原因
	市町村	遺跡番号	
内小屋遺跡	20203	36	152 鉄塔建設
千曲高校遺跡		99	1,074 共同住宅建設
八幡裏遺跡		64	1,877 宮舎建設
中吉田遺跡		32	2,003 共同住宅建設
宮脇遺跡		112	13,011 店舗建設
筒城跡・城遺跡		369・370	1,943 個人住宅建設
築地遺跡		111	829 市指定文化財周辺整備事業
染屋台条里水田跡遺跡		52	2,975 共同住宅建設
染屋台条里水田跡遺跡		52	4,606 共同住宅建設
上田原遺跡		110	— 耕作地整備

※ 遺跡番号の( )内は「上田市の原始・古代文化」(上田市教育委員会1977年)に記載された遺跡番号である。

---

上田市文化財報告書 第99集

市内遺跡

平成16年度市内遺跡発掘調査報告書

発行 平成17年3月25日  
発行者 上田市  
上田市教育委員会  
印刷 田口印刷株式会社

---

